

【 医 学 部 】

第 4 学 年

<生命科学・社会医学系>

基礎上級…………… 別 途

<臨床医学系>

臨床薬理学……………4- 1

性差医療……………4- 2

漢方医学Ⅲ……………4- 3

腫瘍内科学……………4- 4

医療と法……………4- 5

高度医療特論……………4- 6

<総合教育>

医療入門Ⅰ

- ・症候論とケーススタディ

……………4- 7

- ・臨床実習入門……………4- 8

- ・医療と社会……………4- 9

- ・プライマリ・ケアと地域医療……………4-10

社会的コミュニケーション……………4-11

男女共同参画……………4-12

医療入門Ⅱ……………4-13

【担当責任者】鳥羽 衛

【連絡先】薬剤部 DI 室(外線 024-547-1406 , 内線 3078)

* 上記連絡先が不通の場合の連絡先(024-547-1211 , 内線 3073)

【開講年次】4 年, 【学期】前期, 【必修／選択】必修, 【授業形態】講義

【概要】薬物治療は疾患治療の大きな柱である。近年、科学の発展に伴い、顕著な薬効を示す薬や、新しい作用機序をもつ特徴のある薬が次々に開発され、多くの疾患ならびに治癒困難であった疾患も治癒可能になってきている。それに伴い有害作用（副作用）も起こりやすくなっており、また人口の高齢化により、複数疾患を有する患者が増加し、多剤併用による相互作用の発生頻度も高くなっている。医薬品の選択や、投与量、投与方法の決定など、従来医師の経験や勘に頼っていた「さじ加減」では対応困難となってきている。一方、リスクマネジメントの観点からみると、医薬品が関連する医療事故が非常に高い割合を占めてきている。

以上のことより、医薬品適正使用の実践には、まず1つめに処方ルールの基本を理解し、正確に処方せんを発行できることが必要となる。2つめに、科学的な薬効評価によって薬の適応を決定し、疾患に基づく薬物体内動態の変化に対応した投与設計を行い、安全でかつ有効な処方を選択することが必要となる。具体的には、医薬品情報（特に医薬品添付文書）の入手方法、剤形と薬物動態関係、副作用、相互作用、血中濃度のモニタリング等を理解し、処方発行の際、必要となる基本的な知識を習得することが求められる。またがんが国民の疾病による死亡の最大原因となっている現状および「がん対策基本法」の施行を考慮し、特に重要と考えられる「抗がん剤」使用時の留意点ならびに疾病の治療とともに重要となる患者 QOL の向上に寄与する疼痛緩和に関して、使用する医薬品の使い方と使い分けについても学ぶ。

【学習目標】

- 1) 剤形（投与方法）を列挙し、その薬物動態を説明できる。
- 2) 処方せんのルールを理解し、正しい処方せんを作成できる。
- 3) 副作用を分類し、副作用報告をどのように行うのか説明できる。
- 4) 相互作用を分類できる。
- 5) 処方時参考とする基本的な医薬品情報の収集ができる。
- 6) がん患者へ用いる抗がん剤の使用時の留意点を説明できる。
- 7) 疼痛緩和薬の選択と使用方法について理解し、処方に適切に反映できる。

【教科書】特に指定しない。各回、関連する資料を配付する

【参考書】

- ・薬物治療学 改訂第9版 吉尾隆編 南山堂
- ・標準薬剤学 改訂第4版 渡辺善照、芳賀信編 南江堂
- ・緩和医療薬学 日本緩和医療薬学会編集 じほう
- ・PMDA（医薬品医療機器総合機構）のホームページ 【 <http://www.info.pmda.go.jp/> 】
- ・研修医・医学生のためのくすりマニュアル-安全な薬物療法のために- 伊賀立二編 南江堂

【成績評価方法】

- ・毎回の講義後に実施する講義内容に関する豆テスト、定期試験、規定に基づく出席日数により総合的に評価する。

【学習上の注意事項】

- ・不明な点は講義中であっても積極的に質問し、確認すること。

【垂直的統合授業の実施内容】 なし

【水平的統合授業の実施内容】 なし

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】 なし

【授業スケジュール】

- * 講義場所は6号館第4講義室を予定している。

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	21/5/25	火	4	(講)「剤形と処方箋の書き方(1)」 剤形、薬物動態、処方箋様式	鳥羽 衛
2	21/5/25	火	5	(講)「剤形と処方箋の書き方(2)」 処方上の留意点	鳥羽 衛
3	21/6/1	火	4	(講)「剤形と処方箋の書き方(3)」 間違いやすい処方	鳥羽 衛
4	21/6/1	火	5	(講)「医薬品情報」	鳥羽 衛

				添付文書、医薬品インタビューフォーム	
5	21/6/8	火	4	(講)「副作用」 副作用、重篤度分類、自主報告	鳥羽 衛
6	21/6/8	火	5	(講)「医薬品相互作用・TDM」 薬物相互作用、抗菌薬 TDM	鳥羽 衛
7	21/6/15	火	4	(講)「疼痛緩和」 オピオイド、用量換算	鳥羽 衛
8	21/6/15	火	5	(講)「抗がん剤使用時の留意点」 抗がん剤、レジメン、曝露、安全使用	鳥羽 衛
9	21/6/22	火	4	(講)「医薬品開発と治験(1)」 治験、IRB、CRC、医師主導治験	鳥羽 衛
10	21/6/22	火	5	(講)「医薬品開発と治験(2)」 治験、IRB、CRC、医師主導治験	鳥羽 衛

【担当教員】

教員氏名	職	所属
鳥羽 衛	副部長兼医学部助教	附属病院 薬剤部/医療安全管理部

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 知識とその応用	
<p>基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。</p>	

1)	医療を実行するための知識 (※②～⑪はコアカリキュラム参照)	⑪	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	△	習得の機会が

		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。	△	あるが、単位認定に関係ない
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。	△	
10)	根拠に基づいた医療 (EBM) と安全な医療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	●	

科目・コース（ユニット）名： 性差医療
英語名称： Gender-specific medicine

【担当責任者】 小宮 ひろみ

【連絡先】 hiromiy@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年 【学期】 前期 【必修／選択】 必須

【授業形態】 講義

【概要】 性差医療とは性差とライフステージを意識した医療である。本講義は性差医療の概念・背景と生殖器以外の性差のある疾患また病態に焦点をあて、性差医療の重要性を講義する。さらに性差医療の特徴である Narrative based medicine (NBM) についてその必要性を考える。また、女性外来では漢方療法が頻用されており、その有用性についても講義する。

【学習目標】

- 1) 性差を決定する染色体、性ホルモン、内外性器、ジェンダーに関してその特徴を説明できる。
- 2) 性差医療の概念と歴史・背景を説明できる。
- 3) 心疾患、高血圧、脂質異常症、泌尿器科疾患、メンタルヘルス、骨粗鬆症の病態における性差を説明できる。
- 4) 性差医療における NBM と漢方療法の有用性を理解する。

【教科書】 指定しない

【参考書】

Principles of gender-specific medicine, Marianne J Legato, Elsevier academic press, USA

性差医学入門 女と男のよりよい健康のために 監修 貴邑富久子 (じほう)

性差医療 性差医学が医療を変える 編集 天野恵子 (真興交易出版部)

【成績評価方法】

講義内容における知識が身についたかを確認するため期末試験（筆記試験）を行う。また、提示した課題に関して自分で調べたことをまとめたレポートを提出してもらう。成績は期末試験（筆記試験）とレポート両方で評価を行う。出席については、規定に基づく。

【学習上の注意事項】

【垂直的統合授業の実施内容】 該当なし

【水平的統合授業の実施内容】 該当なし

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】 該当なし

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2021/5/25	火	6	(講) 性差医療の概念・歴史・背景	小宮ひろみ
2	2021/6/1	火	6	(講) 性差の構築①(臨床医学の立場から)	小宮ひろみ
3	2021/6/8	火	6	(講) 性差の構築②(基礎医学の立場から)	諸橋憲一郎 小宮ひろみ
4	2021/6/11	金	6	(講) 高血圧・脂質異常症と性差	天野恵子 小宮ひろみ
5	2021/6/15	火	6	(講) 泌尿器科疾患と性差	小川総一郎 小宮ひろみ
6	2021/6/18	金	6	(講) 心疾患と性差	嘉川亜希子 小宮ひろみ
7	2021/6/22	火	6	(講) 骨粗鬆症と性差	小宮ひろみ
8	2021/6/25	金	6	(講) メンタルヘルスと性差	丹羽真一 小宮ひろみ
9	2021/7/2	金	6	(講) Narrative based medicine、女性 外来と漢方療法	小宮ひろみ

【担当教員】

教員氏名	職	所属
小宮ひろみ	教授	福島県立医科大学附属病院 性差医療センター
諸橋憲一郎	教授	九州大学 性差生物学講座
天野恵子	特別顧問	静風荘病院
小川総一郎	講師	福島県立医科大学 泌尿器科学講座
嘉川亜希子	内科部長	鹿児島大学 上山病院
丹羽真一	特任教授	会津医療センター

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル
4. 知識とその応用				
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に活用ができる。				
1)	医療を実行するための知識 (準備教育モデル・コアカリキュラム参照)	①	生命科学を理解するための基礎知識 (1) 染色体の性決定機序を説明できる (2) 内外性器の性決定要因を説明できる (3) 性ホルモンが性差に果たす役割を説明できる (4) ジェンダーの概念を説明できる	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	医療を実行するための知識 (コアカリキュラム参照)	①	生命現象の科学(細胞と生物の進化) (1) 遺伝的性決定・性分化を経て性差構築のプロセスを概説できる (2) 全ての細胞が性をもつことを理解できる	●
		②	個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝 (1) 精巣と卵巣の解剖、発生を説明できる (2) 性ホルモンの制御機構を説明できる (3) 男性ホルモンと女性ホルモンの作用を説明できる (4) 性ステロイドの合成経路を説明できる	●
		⑤	人の心理と行動、コミュニケーション (1) Narrative based medicineを理解できる	●
		⑥	人体各器官の疾患 診断、治療 (1) 心疾患と性差について説明できる (2) メンタルヘルスと性差について説明できる (3) 泌尿器科疾患と性差について説明できる (4) 骨粗鬆症と性差について説明できる	●
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療 (1) 高血圧・脂質異常症と性差について説明できる	●
		⑧	全身におよぶ生理的変化(成長と発達、加齢・老化と死) (1) 思春期 性成熟期 更年期 老年期の心身における性差の特徴を概説できる	●
				実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	<p>患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。</p> <p>(1) Narrative based medicine を実践しながら、病歴を適切に聴取することができる</p>	●	<p>実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である</p>
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	<p>医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。</p>	△	<p>修得の機会があるが、単位認定に関係ない</p>

科目・コース（ユニット）名：漢方医学Ⅲ【医学4】

英語名称：Kampo medicineⅢ

【担当責任者】三瀨 忠道（漢方医学）

分野担当責任者（漢方医学） 湯液：三瀨忠道 鍼灸：鈴木雅雄 生薬：秋葉秀一郎

【連絡先】 湯液：三瀨忠道 tmitsuma@fmu.ac.jp

鍼灸：鈴木雅雄 masuzuki@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年,【学期】前期【必修／選択】必修

【授業形態】講義／実習

【概要】

我が国の臨床医は80-90%が漢方製剤の処方経験があるとされ、また鍼灸を臨床現場で活用している医師や施設も多い。漢方における具体的な診察と治療の方法を学び、その知識や技量を臨床実習さらに実地臨床で活かせる基盤を作る。

【学習目標】

1. 六病位における主要な方剤について、証に基づいた適応を説明できる。
2. 気血水の病態に対応する主要な方剤について、証に基づいた適応を説明できる
3. EBMを理解し、代表的な漢方処方におけるエビデンスの例を説明できる
4. 湯液診療の四診（特に切診）を経験し、模擬患者に適応する方剤候補をあげられる。
5. 鍼灸診療において証に基づいた治療について説明ができる。
6. 模擬患者に対し、安全性を確保し正しい手順で鍼灸の施術ができる。
7. 漢方方剤を構成する実際の生薬を理解し、漢方方剤の実際を説明できる。
8. 資料を参考に調合した生薬を鑑別し具体的な方剤名を推定できる。

【教科書】

1. はじめての漢方診療 ノート。三瀨忠道、医学書院。
卒前から臨床実地まで活用できる、湯液臨床の要点を収載。臨床実習でも使用する。
2. 基本がわかる漢方医学講義。日本漢方医学教育協議会、羊土社。
全国医学部の漢方担当教員による標準教科書。湯液と鍼灸について要点を記載。

【参考書】

1. はじめての漢方診療 十五話、三瀨忠道、医学書院
「はじめての漢方診療ノート」の姉妹版で、丁寧な解説が書いてある。
2. 学生のための漢方医学テキスト、日本東洋医学会
3. 症例から学ぶ和漢診療学、医学書院
4. 漢方概論、創元社
5. 漢方 210 処方 生薬解説、じほう
主要な漢方処方を構成する生薬について、成分や漢方医学的位置づけを解説。
6. 経絡・ツボの教科書、新星出版社

7. 鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス、 医歯薬出版株式会社

【成績評価方法】

- ① 出席は重視する。原則として3分の2以上の出席で②筆記試験の受験資格とする。
 ただし第10-12回の実習は、原則として必ず出席を要し、10点満点で②に加算。
- ② 筆記試験：学習目標に掲げた項目について、その習得度を確認する。
- ・主要な方剤について、模擬症例の四診所見に基づいて証を判定し、方剤を選択できる。
 - ・講義内容に沿った証を用いた鍼灸治療の方法について選択できる。
 - ・疼痛に関する鍼灸治療の概要について説明ができる。
 - ・刺鍼の基本手技が説明できる。

筆記試験 90点と実習 10点を加えて 60%以上で合格。

ただし筆記試験は湯液と鍼灸領域で各 50%以上の点数を要する。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

湯液診察・鍼灸診療・生薬について、知識だけではなく実習要素を取り込んだ体験的学習を実施し、実臨床で応用する基本を身につける。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	R3/6/16	水	4	主要処方とその運用（1） 六病位の適応方剤とその運用① 陽証(1) 太陽病の主要処方 少陽病の主要処方（柴胡剤）	三瀨忠道
2	R3/6/16	水	5	（講）主要処方とその運用（2） 六病位の適応方剤とその運用② 陽証(2) 少陽病の主要処方（柴胡剤以外） 陽明病の主要処方	三瀨忠道
3	R3/6/16	水	6	（講）主要処方とその運用（3） 六病位の適応方剤とその運用③ 陰証 陰証の主要処方	三瀨忠道
4	R3/6/23	水	4	（講）主要処方とその運用（4） 気血水の異常からみた適応方剤の運用① 気の病態と適応方剤 血の病態と適応方剤	齋藤龍史
5	R3/6/23	水	5	（講）主要処方とその運用（5） 気血水	齋藤龍史

				の異常からみた適応方剤の運用② 血の病態と適応方剤（続） 水の病態と適 応方剤	
6	R3/6/23	水	6	（講）EBM と漢方 EBM の考え方と漢方、代表処方におけ るエビデンスの紹介	齋藤龍史
7	R3/6/30	水	4	（講）証を用いた鍼灸の方法	鈴木雅雄
8	R3/6/30	水	5	（講）刺鍼手技に関する講義と演習	加用拓己
9	R3/6/30	水	6	鍼灸の効果について（痛みを中心に養生学 のすゝめ）	伊藤和憲
10	R3/7/7	水	4	（実）※湯液診療の診察実技 四診 脈診 舌診 腹診	三瀨忠道、齋 藤龍史、畝田 一司、小宮ひ ろみ
11	R3/7/7	水	5	（実）※鍼灸診療の実技	鈴木雅雄、加 用拓己、他
12	R3/7/7	水	6	（実）※生薬の選品と五官による評価、 調剤 — 生薬の鑑別、鑑定	秋葉秀一郎、 佐橋佳郎、二 瓶恵子、他

※ 10・11・12（7月7日）は3群に分かれ、3分野を順次交代で実習する。

【担当教員】

教員氏名	職	所属
三瀨忠道	教授	福島県立医大会津医療センター漢方医学講座
鈴木雅雄	准教授	福島県立医大会津医療センター漢方医学講座
齋藤龍史	講師	福島県立医大会津医療センター漢方医学講座
畝田一司	講師	福島県立医大会津医療センター漢方医学講座
秋葉秀一郎	助教	福島県立医大会津医療センター漢方医学講座
加用拓己	助手	福島県立医大会津医療センター漢方医学講座
伊藤和憲	教授	明治国際医療大学鍼灸学部
小宮ひろみ	教授	福島県立医大附属病院性差医療センター
二瓶恵子	主任薬剤技師	福島県立医大会津医療センター薬剤部
佐橋佳郎	室長	北里大学東洋医学総合研究所薬剤部品質 管理室
中沢良平	支部長	全日本鍼灸学会東北支部

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	<p>情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。</p> <p>1)資料を参考に、複数の代表的生薬について鑑別ができる。</p> <p>2)代表的な漢方処方におけるエビデンスを、例を挙げて説明できる</p>	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動をとることができる。	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の条件である
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識（準備教育モデル・コアカリキュラム参照）	①	生命科学を理解するための基礎知識		
2)	医療を実行するための知識（コアカリキュラム参照）	⑩	<p>診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用を概説できる：六病位や気血水の病態に基づき、模擬的症例の適応方剤を考察できる。 鍼灸において EBM と証を理解し、鍼灸のメカニズムと代表的な適応について概説出来る：EBM と証に基づき、模擬的症例に対して安全を確保しながら刺鍼が行える。 	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の条件である

5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。 (脈診、舌診、腹診の基本を実践し、所見の意義を説明できる。)	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の条件である
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の条件である
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策(標準的予防策: standard precaution) が説明できる。	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の条件である

科目・コース（ユニット）名：腫瘍内科学【医学4】
英語名称：Medical Oncology

【担当責任者】佐治重衡

【開講年次】4年, 【学期】前期, 【必修／選択】必須, 【授業形態】講義

【概要】日本の死因の第1位はがんであり、その多くの患者さんにがん薬物療法が必要となる。これまでがん薬物療法は各臓器別に行われてきたが、がん薬物療法を臓器横断的にも行うことができる腫瘍内科の重要性が認識されている。がんの病態を理解し、薬物療法を中心としたさまざまな対処方法を学ぶことを目標とする。

【学習目標】

一般目標 がんの薬物療法について理解できる。

行動目標

1. がん薬物療法に使用される薬剤の作用機序を理解する。
2. 治療効果判定方法 (RECIST) を理解し説明する。
3. 薬剤の有害事象とその評価方法 (CTCAE)、対処法を理解する。
4. 代表的な癌腫における治療戦略について説明できる。
5. がん患者の身体的・社会的苦痛に共感する。

【教科書】特に指定しない。各講義の配布資料。

* 『医学教育モデルコアカリキュラム E-3 腫瘍』は事前に読んでおくこと。
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961_01.pdf

【参考書】新臨床腫瘍学 南江堂

がん診療レジデントマニュアル 医学書院

【成績評価方法】出席日数は総授業数の2/3以上の出席を必要とする。

筆記試験・出席日数により総合的に評価する。

【学習上の注意事項】

能動的に講義に臨むこと。

【垂直的統合授業の実施内容】

他科で習得済みあるいは習得予定である各臓器の腫瘍（特に悪性腫瘍）に関して、治療全般（抗がん薬治療・手術・放射線照射・ホルモン療法などの標準的療法の考え）の流れを指導し、腫瘍治療の全般の流れを指導する。

【水平的統合授業の実施内容】

各臓器の腫瘍（特に悪性腫瘍）に対する抗がん薬治療、特に現在のエビデンスに即した標準治療、その考え方を指導する。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

エビデンスのとらえ方、治療効果判定法、有害事象の評価法、統計学的な解釈、臨床試験の開発法などを指導し、今後、医師として臨床試験・治験などに中心的な役割で参加するような内容を指導する。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2021/5/26	水	4	(講) 総論 がん薬物療法	佐治重衡
2	2021/5/26	水	5	(講) 各論 造血器腫瘍	野地秀義
3	2021/6/2	水	4	(講) 各論 がん薬物治療各論	佐々木栄作
4	2021/6/2	水	5	(講) 各論 がん緩和ケア	阿左見祐介
5	2021/6/2	水	6	(講) 各論 腫瘍と遺伝	徳田恵美
6	2021/6/9	水	4	(講) 各論 がんの臨床試験について	佐治重衡
7	2021/6/9	水	5	(講) 特別 がん患者さんからのメッセージ	佐治重衡 鈴木牧子

【担当教員】

教員氏名	職	所属
佐治重衡	教授	腫瘍内科学講座
徳田恵美	講師	腫瘍内科学講座
佐々木栄作	助手	腫瘍内科学講座
阿左見祐介	病院助手	腫瘍内科学講座
鈴木牧子	非常勤講師	「ひいらぎの会」代表世話人
野地秀義	非常勤講師	腫瘍内科学講座

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。		
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。		
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識（準備教育モデル・コアカリキュラム参照）	①	生命科学を理解するための基礎知識	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
2)	医療を実行するための知識（コアカリキュラム参照）	①	生命現象の科学(細胞と生物の進化)	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝		
		③	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）		
		④	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍）		
		⑤	人の心理と行動、コミュニケーション		

		⑥	人体各器官の疾患 診断、治療		
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療		
		⑧	全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）		
		⑨	疫学と予防、人の死に関する法		
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)		
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。		
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。		
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。		
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。		
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。		
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。		
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。		
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。		

10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。		
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。		
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。		
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。		

科目・コース（ユニット）名：医療と法

英語名称：Medical Law

【担当責任者】藤野美都子（人間科学講座）

【連絡先】mfujino@fmu.ac.jp

【開講年次】4年, 【学期】前期, 【必修／選択】必修

【授業形態】講義

【概要】

医事法学とは、医療取り巻く様々な法的問題を対象とし、これを考察する学問である。人の生命・健康に直接関わる医療に対しては、様々な観点から法的な規制が加えられている。適切な医療を確保するために、医療関係者と医療施設について法的規制が行なわれている。さらに、すべての人に医療が行き渡るように医療保険制度が整備されている。授業では、まず、医療をめぐる法制度について概説する。次に、医療事故をめぐる諸問題について、具体的事例に即して検討する。

授業では、受講生が、患者の権利を保障する医療を実現するために法制度はどうあるべきかという問題関心を持ちつつ、具体的な諸問題について考えることができる場を提供したい。

【学習目標】

一般目標

- 1) 患者の権利を保障する医療を実現するために必要とされる法的知識を身につけ、これを使いこなす力を修得する。
- 2) 患者の権利を保障する医療を実現するために様々な問題に対処できる法的なものの方を修得する。

行動目標

- 1) 医療保険制度について説明できる。
- 2) 患者の権利の内容と、患者の権利を保障する意義について説明できる。
- 3) 医療関係者・医療施設に関する法的規制について説明できる。
- 4) 医師の公法上の義務と契約上の義務について説明できる。
- 5) インフォームド・コンセントの定義とその意義について説明できる。
- 6) 医療過誤における医師の法的責任について説明できる。

【教科書】手嶋豊『医事法入門（第5版）』有斐閣・2018年

【参考書】『医事法判例百選（第2版）』（有斐閣・2014年）

【成績評価方法】

・授業への参画態度（40点）+小課題（20点）+課題（40点）

授業参画態度は、毎時間提出されるコメントペーパーにより評価する。

授業期間中に、テキストを活用する小課題を課す。

授業終了後に、医療事故に関する判決を読み込む課題を課す。

- ・ 3分の2以上の出席者を評価対象とする。

【学習上の注意事項】

受講生が「自ら考える」ことを基本とし、授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、医事法を学ぶ上で、医療を取り巻く社会状況に関する理解は不可欠です。様々なメディアを通じて情報を収集し、今日の社会状況に関する理解を深めることを期待します。

【垂直的統合授業の実施内容】 該当なし

【水平的統合授業の実施内容】 該当なし

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】 該当なし

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	21/6/8	火	3	(講) 講義案内・医事法入門：医療行為の正当性	藤野
2	21/6/15	火	3	(講) 入門：医療と経済	後藤宣代
3	21/6/22	火	1	(講) 医療保険制度：全世代型社会保障制度における医療保険のあり方	大須賀健一
4	21/6/22	火	2	(講) 患者の権利：医療の主体としての患者・患者の権利に関するリスボン宣言	藤野
5	21/6/22	火	3	(講) インフォームド・コンセント：ICをめぐる判例の動向オンライン診療・AI活用診療をめぐる法的問題点	藤野
6	21/6/29	火	1	(講) 医療施設の法規制：医療法など	藤野
7	21/6/29	火	2	(講) 医療関係者の法規制：医師法、保健師助産師看護師法など	藤野
8	21/6/29	火	3	(講) 医師の権利・義務：公法上の義務と契約上の義務	藤野
9	21/7/6	火	2	(講) 医療過誤①：医療過誤における医師の法的責任	藤野
10	21/7/6	火	3	(講) 感染症対策について(仮)	秋野公造
11	21/7/13	火	2	(講) 医療過誤②：医療過誤における医師の法的責任	藤野

12	21/7/13	火	3	(講) 診療情報の保護：診療情報の利用と保護	藤野
----	---------	---	---	------------------------	----

【担当教員】

教員氏名	職	所属
後藤宣代	非常勤講師	人間科学講座（生命倫理学分野）
大須賀健一	室長	放射線医学県民健康管理センター国際連携室
秋野公造	参議院議員	
藤野美都子	教授	人間科学講座（生命倫理学分野）

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム			
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。			
1)	倫理	① 医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	① 個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		② 各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	● 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		③ 利益相反について説明できる。	
2. 生涯教育			
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的			

思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	—	
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	—	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	—	
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。

		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができます。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない。

科目・コース（ユニット）名：高度医療特論
英語名称：Advanced Medical Lecture

担当責任者：伊関 憲

連絡先：教育学習支援課 4 年生担当, 救急医療学講座 024-547-1581（内線 2531）

開講年次：4 年，学期：前期，必修／選択：必修，授業形態：講義

概要：2 年次に学習した基礎医学と 3 年次に学習した臨床医学の知識を統合する。さらに臨床医学で学習した内容を再復習し、臨床実習で生かされる知識へとする必要がある。

学習目標：

1. 疾病について必要な解剖学、生理学、生化学、薬理学を概説できる。
2. 内科学で必要な病態生理、診察法、検査、治療法を説明できる。
3. 外科学で必要な病態生理、診察法、検査、治療法を説明できる。
4. 小児科学で必要な病態生理、診察法、検査、治療法を説明できる。
5. 重症患者に必要な手技の意義と検査内容を説明できる。
6. 画像診断とその読影方法を理解できる。

教科書：

3 年時に履修した講義で指定された教科書。

参考書：

必要に応じてプリントなどが配布される。

成績評価方法：

出席日数（2/3 以上の出席が必要）、筆記試験等により総合的に判定される。

学習上の注意事項：

臨床実習に必要な知識を講義するので全ての講義を出席すること。

垂直的統合授業の実施内容：

2 年次に学習した解剖学・生理学・病理学・薬理学など基礎医学で学習した内容と 3 年次に学習した臨床医学で学習した内容を統合して講義する。

水平的統合授業の実施内容：

内科系と外科の外科系の講義を統合してさらに実際の臨床実習で生かせる能力の向上を図るための講義である。

科目・コース（ユニット）名：高度医療特論
 英語名称：Advanced Medical Lecture

本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容：

本講義は基礎医学と臨床医学の統合、臨床医学で学習した内容を臨床実習に生かせるための特別講義であり、本学の独自の新たな特論である。

授業スケジュール／担当教員等：

月日	曜日	時 限	内容	担当教員名
5月24日	月	4	外傷と止血機構	鈴木剛
		5	呼吸器外科	鈴木弘行
		6	上部・胆膵疾患	高木忠之
5月27日	木	4	肝疾患	阿部和道
		5	消化管外科	河野浩二
		6	水・電解質代謝特論	風間順一郎
5月28日	金	4	小腸・大腸疾患	鬼澤道夫
		5	血液ガスと乳酸値	鈴木剛
		6	心臓血管外科	横山斉
5月31日	月	4	小児のバイタルサインと検査所見	青柳良倫
		5	小児の症候論（診断の進め方）	陶山和秀
		6	小児の診察の仕方、カルテの書き方	細矢光亮
6月3日	木	4	乳腺外科	大竹徹
		5	脳神経内科1	金井数明
		6	糸球体疾患特論	風間順一郎
6月7日	月	4	肝胆膵・移植外科	丸橋繁
		5	小児外科	田中秀明
		6	甲状腺内分泌外科	鈴木眞一
6月10日	木	4	心電図の読み方 再考	中里和彦
		5	循環器で使用する薬・注射編	中里和彦
		6	循環器で使用する薬・内服編	中里和彦
6月14日	月	4	酸素と呼吸	箱崎貴大
		5	人工呼吸に必要な呼吸生理	箱崎貴大
		6	人工呼吸の基本的な考え方	箱崎貴大
6月17日	木	4	脳神経内科2	金井数明
		5	脳神経内科3	金井数明
		6	尿毒症・腎代替療法特論	風間順一郎

科目・コース（ユニット）名：高度医療特論
 英語名称：Advanced Medical Lecture

6月21日	月	4	救急画像診断	黒岩大地
		5	IVR（血管内および非血管）	関野啓史
		6	腫瘍核医学	石井士朗

【担当教員】

教員氏名	職	所属
鈴木弘行	教授	呼吸器外科学講座
河野浩二	教授	消化管外科学講座
風間順一郎	教授	腎臓内科講座
横山 斉	教授	心臓血管外科学講座
細矢光亮	教授	小児科学講座
大竹徹	教授	乳腺外科学講座
金井教明	教授	脳神経内科学講座
丸橋繁	教授	肝胆膵・移植外科学講座
田中秀明	教授	小児外科
鈴木眞一	教授	甲状腺内分泌学講座
高木忠之	准教授	消化器内科講座
中里和彦	准教授	循環器内科講座
石井士朗	准教授	放射線医学講座
阿部和道	講師	消化器内科講座
陶山和秀	講師	小児科学講座
箱崎貴大	講師	集中治療部
鬼澤道夫	助教	消化器内科講座
関野啓史	助教	放射線医学講座
鈴木剛	助手	救急医療学講座
青柳良倫	助手	小児科学講座
黒岩大地	助手	放射線医学講座

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

コンピテンス達成レベル：

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
---------	---------

2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識（準備教育モデル・コアカリキュラム参照）	①	生命科学を理解するための基礎知識	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	医療を実行するための知識（コアカリキュラム参照）	①	生命現象の科学(細胞と生物の進化)	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝		
		③	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）		
		④	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍）		
		⑥	人体各器官の疾患 診断、治療		
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療		
		⑧	全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）		

		⑨	疫学と予防、人の死に関する法		
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)		
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。		

科目・コース（ユニット）名： 症候論とケーススタディ
英語名称：Clinical Reasoning & Case study

【担当責任者】紺野慎一（整形外科科学講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）、風間順一郎（腎臓高血圧内科学講座）

【連絡先】igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】4, 【学期】前期【必修／選択】必修

【授業形態】講義／演習／実習

【概要】職業訓練と位置付けられるこのユニットは、（１）症候論、（２）多職種連携授業から成る。

これまでは病気について「疾患名→病態→症状・身体所見・検査所見」の流れで学習してきた。しかし、臨床現場では、患者さんが訴える症状（symptom）から疾患を想定し、病歴や観察した兆候（sign）を基に疾患の同定（診断diagnosis）を行う思考が必要になる。症候論ではコア・カリキュラムであげられている主要37症候について、診断を確定させるまでの論理的アプローチ法を修得する。尚、一部の授業を、グループワークを基盤とするTBL(team-based learning)で行う。協働を実践しながら、チーム医療に必要な態度を身に付けて欲しい。

更に、患者さんのケアには、医学的な根拠に加えて患者さんの社会的・心理的背景を踏まえた判断が必要になる。多職種連携授業では、看護学部生と合同で行うケーススタディを介して、患者中心の医療を実践するために異なる専門職の多角的視点からの検討・判断が必要であることを学ぶ。

【学習目標】

（１）症候論

1. 主訴・症状から可能性のある疾患を想起できる
2. 経過を基に、想起した疾患の重みづけ（頻度、重症度、緊急度）ができる
3. 必要な身体診察項目を挙げるができる
4. 身体所見を解釈できる
5. 診断に必要な検査を、優先順位を考慮してあげることができる
6. 検査所見を解釈できる
7. 得られた情報から考えられる診断を、要約してプレゼンテーションできる
8. ルールを順守し、課題解決に向けてチームに貢献できる

（２）多職種連携授業

1. 患者の社会的・心理的背景を踏まえて診療方針を考えることができる
2. 最良の診療方針を選択するために、他職種とお互いの知識、情報、考えを交換することができる

【教科書】 指定しない。

【参考書】

- ・「誰も教えてくれなかった診断学—患者の言葉から診断仮説をどう作るか」野口善令、福原俊一 著 医学書院
- ・「内科診断学」福井次矢、奈良信雄 編集 医学書院
- ・「内科学」矢崎義雄 総編集 朝倉書店
- ・「ハリソン内科学」福井次矢、黒川清 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル

【成績評価方法】

- ① 出席状況（2/3以上が必要）
- ② 授業態度
- ③ 授業時間内の試験（TBLのIRAT、GRAT、終了試験を含む）
- ④ 提出物の内容

【学習上の注意事項】

【垂直的統合授業の実施内容】 該当なし。

【水平的統合授業の実施内容】 「症候論」は、疾患ごとに修得した知識を横断的に駆使しなければならない点で統合的内容である。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

症候論の一部は、アクティブラーニング理論に基づき、team-based learning (TBL) の形式で行う。

【授業スケジュール】

令和3年4月以降に別途通知する。

【担当教員】

令和3年4月以降に別途通知する。

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の条件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○	
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	○	
		③	利益相反について説明できる。	○	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
3)	自己啓発と自己鍛	②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	○	基盤となる態度、スキ

	錬				ルを示せる ことが単位 認定の要件 である
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に 関係ない
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
2)	医療チームでのコミュニケーション	③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	○	基盤となる 態度、スキルを示せる ことが単位 認定の要件 である
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
2)	医療を実行するための知識 (コアカリキュラム参照)	③	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが 単位認定の要件である
		④	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍）	○	
		⑤	人の心理と行動、コミュニケーション	○	
		⑥	人体各器官の疾患 診断、治療	○	
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療	○	
		⑧	全身におよぶ生理的变化（成長と発達、加齢・老化と死）	○	
		⑨	疫学と予防、人の死に関する法	○	

		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	○	
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	○	模擬的診療を実践できることが単位認定の要件である
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	○	単位認定の要件である
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	○	模擬的診療を実践できることが単位認定の要件である
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					

1)	科学的思考と研究	① 医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
----	----------	--	---	---------------------

科目・コース（ユニット）名：医療入門1（臨床実習入門）
英語名称：Introduction to Medical Training

【担当責任者】紺野慎一（整形外科学講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）、
木村隆（外科研修支援担当）、濱口杉大（総合内科学講座）

【連絡先】igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】4年、【学期】前期【必修／選択】必須

【授業形態】講義／演習／実習

【概要】診療参加型臨床実習に必要とされる臨床技能の修得を確実にするための学習ユニットである。Student doctor として参加型臨床実習を行うためには、このコースで学ぶ全ての臨床手技を身に付けていなければならない。しかし、臨床手技を修得する上で最も重要なことは、何のためにその操作をその手順で行うのか、理論的背景を理解していることである。

【学習目標】診療参加型臨床実習を行うにあたって必要とされる臨床技能を、それぞれの目的・意味を理解した上で実践できる。

1. 診断のための適切な医療面接ができる。
2. 全身（頭頸部、胸部、腹部、四肢・脊柱、神経系、バイタルサイン）の系統的な診察ができる。
3. 基本的な救命救急処置ができる。
4. 基本的検査手技を行える。
5. 基本的処置とそのための清潔操作ができる。
6. 英語による初診患者の医療面接ができる。

【教科書】

1. 「臨床実習開始前の共用試験」第8版 社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）—配布予定
2. 診療参加型臨床実習および臨床実習開始時に必要とされる技能と態度（教育・学習用DVD）
URL—大学HP Moodle からアクセス可能
3. 「診察と手技がみえる Vol.1」古谷伸之編集 MEDIC MEDIA—要購入（医療人育成・支援センターから貸し出し可能4冊まで）
4. 【参考書】「OSCE/Post-CC OSCE に役立つ医学生のための基本的臨床手技」車谷典男、古家仁監修 診断と治療社

【成績評価方法】

- ・ 出席単位認定（単位認定には5分の4の演習の出席を要する）
- ・ 授業態度（使用物品の取り扱い・時間・身だしなみ・ルールの遵守を含む）

【学習上の注意事項】

Moodle 上にある DVD「OSCE/Post-CC OSCE に役立つ医学生のための基本的臨床手技」を必ず視聴すること。

予め教科書 1, 2 の該当部分を読んでから実習に臨むこと

やむを得ない理由で欠席する場合には、予め大学に連絡すること。

【垂直的統合授業の実施内容】 該当なし。

【水平的統合授業の実施内容】 全ての診療科の診察に必要な基本的な手技を学ぶ。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】 該当なし。

【授業スケジュール】

令和 3 年 4 月以降別途通知する。

【担当教員】

令和 3 年 4 月以降別途通知する。

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せること
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○	が単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会があるが、単位認定には関係ない
3)	自己啓発と自己鍛錬	②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	△	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	△	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
2)	医療を実行するための知識（コアカリキュラム参照）	⑤	人の心理と行動、コミュニケーション	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	○	
5. 診療の実践					

患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。	○	模擬的診療を実践できることが単位認定の要件である
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策(標準的予防策: standard precaution) が説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

科目・コース（ユニット）名：医療入門1（医療と社会）【医学4】
英語名称：medical care and society

【担当責任者】藤野美都子 人間科学講座（生命倫理学分野）、佐藤薫（麻酔科学講座）
【開講年次】4年、【学期】前期 【必修／選択】必須
【授業形態】講義（グループ・ディスカッションを含む）

【概要】

医療は人の社会的な営みをいう広い文脈の中に存在すると考えられる。しかし、今日は医療技術の進歩の側面を追い求めるあまり、患者・家族の個人的な精神性や社会性についてはおざなりになってきたと考えられる。日本においては、病気を抱える患者・家族に対しての全人的ケアを緩和医療の広がりが国策の一つとなっているが、福島ではまだ浸透しているとは言い難い状況である。「緩和医療」の授業では、医療やの前に一人の‘人’として、死について深く考え、そして医療者として、がん患者の症状コントロールやコミュニケーション技術を学ぶ場としたい。

さらに、医療者には、日々の医療現場で、あるいは、先端医療の現場で直面する倫理的諸問題に対処することも求められている。「臨床倫理」の授業では、患者および家族の立場を理解したうえで、日々の医療に従事する姿勢を受講生が学ぶことができる場としたい。

【学習目標】

緩和医療

- 1) 全人的な医療を理解し、説明ができる。
- 2) 緩和医療とはなにかを理解し、説明ができる。
- 3) 包括的ながん医療を理解し、説明ができる。
- 4) がん性疼痛の薬物療法とオピオイドについて理解し、説明することができる。
- 5) 悪い知らせを患者に伝える際のコミュニケーション技術について理解し、その要点を説明することができる。

臨床倫理

- 1) 臨床倫理に関する基本的事項を説明できる。
- 2) 先端医療をめぐる倫理的諸問題について説明できる。
- 3) 患者・家族の立場から、臨床倫理を考えることができる。
- 4) チーム医療の重要性について説明できる。
- 5) 研究倫理に関する基本的事項について説明できる。

【教科書】指定しない。

【参考書】

- ・ Robert Twycross, Andrew Wilcock（武田文和・的場元弘監訳）『トワイクロス先生の緩和ケア』医学書院 2018年

- ・『がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか』医学書院・2007年
- ・A. R. ジョンソンほか（赤林朗・大井玄監訳）『臨床倫理学 臨床医学における倫理的決定のための実践的アプローチ（第5版）』新興医学出版社・2006年
- ・G. E. ペンス（宮坂道夫・長岡成夫訳）『医療倫理 よりよい決定のための事例分析』みすず書房・2000年
- ・赤林朗編『入門・医療倫理 I（改訂版）』勁草書房・2017年
- ・樋口範雄編『ケース・スタディ 生命倫理と法（第2版）』有斐閣・2012年

【成績評価方法】

緩和医療

基本的には出席し、授業ごとの感想やレポートを提出していれば合格点とする。グループワークが中心の授業もあり、その場合は他人の意見を共有しながら自身の意見もしっかりのべることができることが最低限必要であると考えている。参加していても他の勉強をしていたり、発言しない、意図してグループ・ディスカッションを妨害するような授業態度が認められる場合には落第点となることを留意してほしい。

臨床倫理

出席状況と授業参画態度（毎時間のコメントペーパーの提出と記載内容）に基づいて行う。コメントペーパーは、講師の先生のお話を踏まえた上で記載されているか、グループ・ディスカッションを踏まえて記載されているか、などの観点から評価する

【学習上の注意事項】

【垂直的統合授業の実施内容】

生命倫理（1年生）・死生観の歴史（1年生）・薬害から学ぶ（1年生）

【水平的統合授業の実施内容】

医療と法（4年生）・臨床実習入門（4年生）

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

- ・哲学分野の講師を招き、死を意識することから生についてグループ・ディスカッションを通して深く探求していく。
- ・患者の立場の講師を招き、医療を患者の視点から考える場を受講生に提供する。

緩和医療

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	21/5/25	火	1	(グループ討論) 死と生の希望について考える	竹之内 裕文
2	21/5/25	火	2	(グループ討論) 死と生の希望について考える	竹之内 裕文
3	21/5/25	火	3	(グループ討論) 死と生の希望について考える	竹之内 裕文
4	21/6/1	火	1	(講) 在宅医療	橋本 孝太郎
5	21/6/1	火	2	(講) 包括的緩和医療、トータルペイン	佐藤 薫
6	21/6/1	火	3	(講) がん性疼痛・呼吸困難の症状緩和	佐藤 薫
7	21/6/8	火	1	(ビデオ聴講) 家で家族を看取ること	高橋 まり
8	21/6/8	火	2	(全体討論) 家で家族を看取ること	高橋 まり
9	21/6/15	火	1	(講) 精神腫瘍学	三浦 至
10	21/6/15	火	2	(ロールプレイ) 悪い知らせの伝え方	佐藤 薫

【担当教員】

教員氏名	職	所属
竹ノ内裕文	教授	静岡大学創造科学技術大学院・農学部
高橋 まり	ご遺族	
橋本 孝太郎	医師	ふくしま在宅緩和ケアクリニック
三浦 至	准教授	福島県立医科大学心身医療講座
佐藤 薫	講師	福島県立医科大学麻酔科学講座

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

臨床倫理

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	21/6/4	金	4	講義案内 (講) 臨床倫理入門①床倫理の基本概念	末永・福田・藤野
2	21/6/4	金	5	(グループ・ディスカッション) 臨床倫理入門②4分割法の活用	末永・福田・藤野
3	21/6/4	金	6	(講) 医師のプロフェッショナリズム	尾藤誠司

4	21/6/11	金	4	(講) 産業看護師の役割：がん患者の就労支援	清野弘子
5	21/6/11	金	5	(講) 治験をめぐる倫理問題	稲野彰洋
6	21/6/18	金	4	(講) 生殖補助医療をめぐる倫理問題①	松本亜樹子
7	21/6/18	金	5	(講) 生殖補助医療をめぐる倫理問題②	松本亜樹子
8	21/6/25	金	4	(講) 薬害被害者のお話を聞く①	井上昌和 浅川身奈栄
9	21/6/25	金	5	(講) 薬害被害者のお話を聞く②	井上昌和 浅川身奈栄
10	21/7/2	金	4	(講) 研究倫理入門：倫理審査委員会の役割	藤野
11	21/7/2	金	5	(講) 遺伝カウンセリング	鈴木真一
12	21/7/9	金	4	(グループ・ディスカッション) 若年性認知症の告知①	福田・末永・藤野
13	21/7/9	金	5	(グループ・ワーク) 若年性認知症の告知②	福田・末永・藤野
14	21/7/9	金	6	(講) 臨床の場から考える：日々の臨床問題	阿南陽二
15	21/7/14	水	4	(講) セカンド・オピニオン	佐治重衡
16	21/7/16	金	4	(グループ・ワーク) 模擬倫理委員会	藤野・末永・福田

【担当教員】氏名、職名、所属を記載

教員氏名	職	所属
尾藤誠司	臨床研究科医長	東京医療センター
清野弘子	両立支援コーディネーター	
稲野彰洋	医療研究推進センター・臨床研究センター副センター長	福島県立医科大学
松本亜樹子	理事長	NPO 法人 Fine
井上昌和		全国薬害被害者団体連絡協議会
浅川身奈栄		全国薬害被害者団体連絡協議会
鈴木真一	教授	甲状腺内分泌学講座

阿南陽二	副院長	古川民主病院
末永恵子	講師	人間科学講座
福田俊章	准教授	人間科学講座
藤野美都子	教授	人間科学講座

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム			科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム			
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。			
1)	倫理	① 医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
3)	対人関係	① 他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	① 個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		② 各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	△ 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		③ 利益相反について説明できる。	○ 態度、習慣、価値観

					を模擬的に示せることが単位認定の要件である
2. 生涯教育					
<p align="center">医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。</p>					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
3. コミュニケーション					
<p align="center">患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。</p>					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である

		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		④	チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識 (※②～⑪はコアカリキュラム参照)	④	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑤	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍）	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑥	人の心理と行動、コミュニケーション	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

5. 診療の実践				
<p>患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。</p>				
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△ 修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△ 修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）				
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備がきている。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>				
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	△ 修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	△ 修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	△ 修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
7. 医学/科学の発展への貢献				
<p>総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。</p>				
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスションを生み出す科学的思考ができる。	△ 修得の機会はあるが 単位認定に関係ない
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	△ 修得の機会はあるが 単位認定に関係ない

		④ 指導者のもと倫理的事項に配慮して、 基礎的および臨床的に興味ある領域 での研究の立案ができる。	● 実践の基盤となる知 識を示せることが単 位認定の要件である
--	--	---	---------------------------------------

科目・コース（ユニット）名：医療入門1（プライマリ・ヘルス・ケアと地域医療）
英語名称：Primary Care and Community Medicine

【担当責任者】葛西龍樹

【連絡先】地域・家庭医療学講座（comfam@fmu.ac.jp）

【開講年次】4年，【学期】前期【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】

地域医療の崩壊を防ぎ、地域住民のニーズに沿った質の高いプライマリ・ヘルス・ケアを実践するには、家庭医療学の原理を十分に学んで、それを実際に地域で展開していくことが必須です。このユニットでは、2018年度から「総合診療専門医」という名称で国を挙げて養成されることになったプライマリ・ヘルス・ケアの専門医が取り組む新しい医療について、系統的に学ぶ機会を提供しています。将来医学医療のどの分野へ進む医学生にとっても、家庭医療学を理解することは役に立ちます。

【学習目標】

- ①医療面接において、患者の illness（病気）の体験を探る質問ができる。
- ②健康問題に対する包括的アプローチ（複数の健康問題の相互作用等）を説明できる。
- ③家族や地域といった視点を持ち、心理・社会的背景により配慮した診療を説明できる。
- ④介護の定義と種類を説明できる。
- ⑤日常生活動作＜ADL＞（排泄、摂食、入浴等）に応じた介護と環境整備の要点を概説できる。
- ⑥多職種連携の重要性を認識する。
- ⑦臨床現場において、医療・保険・福祉・介護に関する制度に触れる。
- ⑧地域包括ケアシステムと介護保険制度、障害者総合支援法等の医療保健福祉制度を概説できる。
- ⑨在宅医療の在り方、今後の必要性和課題を概説できる。
- ⑩在宅医療における多職種連携の重要性を説明できる。
- ⑪褥瘡の予防、評価、処置・治療及びチーム医療の重要性を説明できる。
- ⑫在宅における人生の最終段階における医療、看取りの在り方と課題を概説できる。

【教科書】

1. マクウィニー家庭医療学 上巻・下巻（ぱーそん書房）
2. 医療大転換-日本のプライマリ・ケア革命-（ちくま新書）

【参考書】

1. スタンダード家庭医療マニュアル（永井書店）
2. 家族志向のプライマリ・ケア（丸善出版）
3. 診療ガイドラインが教えてくれないこともある（南山堂）

【成績評価方法】

1 コマにつき出席＋課題（小テスト）で 10 点満点（出席と課題の配点は各担当教員による）
 14 コマ×10 点＝140 点満点となり、6 割（84 点）以上で合格とする。
 詳細については初回講義の冒頭で教員より説明する。

【学習上の注意事項】

特記なし。

【垂直的統合授業の実施内容】

「へき地医療とキャリア形成」の授業では、非常勤講師が臨床医学的側面と社会医学的側面を交えた統合的授業を行う。「地域包括ケアシステムと家庭医療」の授業では、生活相談員を非常勤講師としてお迎えし、医学部 3 年次の老年医学の授業内容をさらに深める授業を行う。

【水平的統合授業の実施内容】

「世界の家庭医療と医学教育」の授業では、英国の家庭医でもある医療人育成・支援センターの教員が授業を行う。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

「家庭医療学、総合診療専門医、プライマリ・ヘルス・ケアと医療大転換」の授業において、当講座が取り組んでいる研究に触れる。特に、ここ数年で学会と医学雑誌に発表された多彩な研究（医学生のアイデンティティ形成、医学教育での家庭医療実習の重要性、ジェネラリストとスペシャリスト、生活習慣病への行動科学的介入、プライマリ・ヘルス・ケア政策導入の国際比較、メンタルヘルスとプライマリ・ヘルス・ケア連携の国際共同プロジェクトなど）を紹介しながら、プライマリ・ヘルス・ケアの専門性の魅力を伝える。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2021/5/27	木	1	（講）家庭医療学、総合診療専門医、プライマリ・ヘルス・ケアと医療大転換	葛西龍樹
2	2021/5/27	木	2	（講）患者中心の医療の方法	葛西龍樹

3	2021/5/27	木	3	(講) 世界の家庭医療と医学教育	Maham Stanyon
4	2021/6/3	木	1	(講) 複数の健康問題と包括的アプローチ	中村光輝
5	2021/6/3	木	2	(講) 家族志向ケアと在宅医療	中村光輝
6	2021/6/3	木	3	(講) へき地医療とキャリア形成	森冬人
7	2021/6/10	木	1	(講) 介護保険	菅家智史
8	2021/6/10	木	2	(講) Advance Care Planning	菅家智史
9	2021/6/10	木	3	(講) 家庭医・総合診療医の外来診療	菅家智史
10	2021/6/17	木	1	(講) 予防・健康増進・行動変容	遠藤芽依
11	2021/6/17	木	2	(講) 褥瘡の予防、評価、治療とチーム医療	遠藤芽依
12	2021/6/17	木	3	(講) 地域包括ケアシステムと家庭医療	遠藤芽依 早坂史恵
13	2021/6/24	木	1	(講) 総括① (国試問題演習と解説)	中村光輝
14	2021/6/24	木	2	(講) 総括② (国試問題演習と解説)	中村光輝

【担当教員】

教員氏名	職	所属
葛西龍樹	主任教授	地域・家庭医療学講座
菅家智史	講師	地域・家庭医療学講座
中村光輝	助手	地域・家庭医療学講座
遠藤芽依	助手	地域・家庭医療学講座
Maham Stanyon	助手	医療人育成・支援センター
森冬人	常勤医師	只見町国保朝日診療所
早坂史恵	生活相談員	介護付き有料老人ホーム シャローム

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム	
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。	

1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。		
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつせず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。		
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。		
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。		
		③	利益相反について説明できる。		
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。		
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。		
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。		
2)	国際人としての基礎	①	国内外からの最新の医学情報を収集し、発信できる英語力を有し、英語によるコミュニケーションができる。		

		②	英語以外の外国語の学習を通じて、異文化を知るための情報の入手、異文化の理解ができる。		
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。		
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	●	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	●	
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	●	
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。		
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。		
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	●	

		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	●	
		④	チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。		
		⑤	診療の引き継ぎ（ローテーション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。		
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
1)	医療を実行するための知識（準備教育モデル・コアカリキュラム参照）	①	生命科学を理解するための基礎知識		
2)	医療を実行するための知識（コアカリキュラム参照）	①	生命現象の科学(細胞と生物の進化)		
		②	個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝		
		③	個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）		
		④	病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍）		
		⑤	人の心理と行動、コミュニケーション	●	
		⑥	人体各器官の疾患 診断、治療		
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療		
		⑧	全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）	●	

		⑨	疫学と予防、人の死に関する法		
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	△	
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	△	
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	△	
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	△	
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	△	
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	△	
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。		
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。		
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。		
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。	●	
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。		
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策(標準的予防策: standard precaution)が説明できる。		
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。		

6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	●	
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	●	
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	●	
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	●	
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	●	
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島で起こった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。		
		②	医療における地域の特性を理解し、高頻度の疾患を診断でき、治療方法と予防対策を提示できる。		
		③	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明ができる。		
		④	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 医学/科学の発展への貢献					

総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。

1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。		
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。		
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。		
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。		
2)	福島から世界へ	①	国際的な健康問題や疾病予防について理解できる。		
		②	福島の特徴から生じる医療上の問題点を、科学的・論理的に思考することができる。		

科目・コース（ユニット）名：社会的コミュニケーション論
英語名称：Societal communication

【担当責任者】田巻倫明、村上道夫、竹林由武、後藤あや

【連絡先】田巻倫明：tamakit@fmu.ac.jp

村上道夫：michio@fmu.ac.jp

竹林由武：ytake2@fmu.ac.jp

後藤あや：agoto@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年, 【学期】前期 【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】

臨床現場における患者や家族とのコミュニケーションのみならず、地域保健の観点から、医療者は社会やコミュニティにおけるステークホルダーとの円滑なコミュニケーション能力が求められる。本講義では、そのような社会的コミュニケーションの基礎を学び、人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理といったコミュニケーション上に必要な要素について学ぶ。

【学習目標】

- 1) 社会的コミュニケーションの基礎を説明できる
- 2) 人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理といったコミュニケーション上に必要な要素について説明できる。

【教科書】

授業中、必要に応じて担当の講師から紹介がある。

【参考書】

以下を参考図書とする。

1. 中谷内一也編：リスクの社会心理学、有斐閣、2012年
2. National Research Council 編、林裕造、関沢純監訳：リスクコミュニケーション 前進への提言、化学工業日報社、1997年

【成績評価方法】

成績評価は①出席状況、②授業態度、③レポートに基づき行う。必要に応じてテストを行う可能性もある。

【学習上の注意事項】特記事項なし

【垂直的統合授業の実施内容】 特記事項なし

【水平的統合授業の実施内容】

「放射線生命医療学」や「チュートリアルⅢ」の授業における放射線防護、地域保健、臨床心理、社会科学などの多様な分野にまたがる内容である。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

本授業は、東日本大震災及び福島第一原発事故後に求められたリスクコミュニケーションに関する内容を含む。とりわけ、臨床的視点に加えて、社会的な対話のあり方について学習する授業となる。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2021/5/28	金	2	序論・概要	村上道夫
2	2021/5/28	金	3	福島災害とコミュニケーション	村上道夫
3	2021/6/4	金	2	コミュニケーションスキル、シェアード・ディシジョン・メイキング	竹林由武
4	2021/6/4	金	3	コミュニケーションスキル、シェアード・ディシジョン・メイキング	竹林由武
5	2021/6/11	金	2	ヘルスリテラシー	後藤あや
6	2021/6/11	金	3	ヘルスリテラシー	後藤あや
7	2021/6/18	金	2	地域医療、科学とコミュニケーション	越智小枝
8	2021/6/18	金	3	地域医療、科学とコミュニケーション	越智小枝
9	2021/6/25	金	2	食品をめぐる対話、福島災害、その他のわざわい、社会科学的視点からの議論	五十嵐泰正
10	2021/6/25	金	3	食食品をめぐる対話、福島災害、その他のわざわい、社会科学的視点からの議論	五十嵐泰正
11	2021/7/2	金	2	放射線リスクコミュニケーション	田巻倫明
12	2021/7/2	金	3	放射線リスクコミュニケーション、全体のまとめ	田巻倫明

【担当教員】

教員氏名	職	所属
田巻倫明	教授	福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座

村上道夫	准教授	福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座
竹林由武	助教	福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座
後藤あや	教授	福島県立医科大学 総合科学教育研究センター
越智小枝	講師	東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座
五十嵐泰正	准教授	筑波大学 人文社会系

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		③	利益相反について説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である

		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	実践の基盤となる知識を示

				せることが単位認定の要件である
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	● 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	● 実践の基盤となる知識を示せること

					が単位認定の要件である
		④	チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		⑤	診療の引き継ぎ（ローテーション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
2)	医療を実行するための知識（コアカリキュラム参照）	⑤	人の心理と行動、コミュニケーション	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。	●	実践の基盤となる知識を示

					せることが単位認定の要件である
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）					
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>					
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	医療における地域の特性を理解し、高頻度の疾患を診断でき、治療方法と予防対策を提示できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		③	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明ができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない
		④	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

7. 医学/科学の発展への貢献

総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。

1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
2)	福島から世界へ	①	国際的な健康問題や疾病予防について理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認

					定に関係 ない
		②	福島の特徴から生じる医療上の問題点を、科学的・論理的に思考することができる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない

科目・コース（ユニット）名： 男女共同参画 医学4
英語名称：Gender Equality

【担当責任者】小宮 ひろみ

【連絡先】hiromiy@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年 【学期】後期 【必修／選択】必須

【授業形態】講義／演習

【概要】

医師として生涯を通じたキャリア形成は重要な課題である。本講義では、男女共同参画やダイバーシティという観点から、医師として生涯にわたるキャリア形成のあり方を考える。また、卒後におこりうるライフイベントを想像し、より身近なこととして捉えられるようにグループ演習や先輩の体験談も交え、講義をすすめていく。

【学習目標】

《学習総合》

- 1) 医師として男女共同参画・ダイバーシティの意義を考えることができる。
- 2) ワーク・ライフ・バランスについて説明できる。
- 3) 医師として生涯学習することが重要であることを理解できる。

《グループ学習》

- 1) 医師のキャリア形成の中でおこりうるライフイベントを多面的に想像できる。
- 2) 他者の考えを理解し、柔軟に考えることができる。

【教科書】指定なし

【参考書】指定なし

【成績評価方法】

成績評価は①出席状況と②キャリア未来年表提出で行う。

上記はやむを得ない事情がない限り必須である。

【学習上の注意事項】

学生は7人前後のグループとなり、指定箇所にて行う。シナリオに対して、グループに分かれ、学生が主体的に討論を行う。シナリオは①若い医師夫婦の子供（幼児）が突然発熱したケース ②妻の海外留学を迷うケースを提示する。まず、グループで討議し、選択肢及びその理由を記載した後、全体の発表会に続き、総合討論・総括を行う。

シナリオ作成者：小宮ひろみ 蓮沼直子（広島大学医学部附属医学教育センター）

行動目標：卒後のライフイベントをシュミレーションすることにより、その中で自らのキャリアをどのように形成していくべきか考えることができる。

【垂直的統合授業の実施内容】

医学部1年生の「男女共同参画」授業においては、男女共同参画社会・ダイバーシティの意味と医学部卒業後のキャリアパスを学ぶ。

【水平的統合授業の実施内容】該当なし

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】該当なし

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2021/10/1	金	5	(演) シナリオを用いたグループ演習	小宮ひろみ 蓮沼直子
2	2021/10/1	金	6	(講) 先輩医師の体験談を聞く	小宮ひろみ 蓮沼直子
3	2021/10/1	金	7	(講) 男女共同参画・ダイバーシティを考える	小宮ひろみ 蓮沼直子

【担当教員】

教員氏名	職	所属
小宮ひろみ	教授	福島県立医科大学附属病院 性差医療センター
蓮沼直子	教授	広島大学医学部附属医学教育センター

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナリズム	
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。	

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	△	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	●	

科目・コース（ユニット）名：医療入門2
英語名称：Introduction to Medical Practice 2

【担当責任者】紺野慎一（整形外科科学講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）

【連絡先】igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】4年、【学期】後期【必修／選択】必須

【授業形態】講義／演習

【概要】GBT と OSCE により基本的医学知識と技能が一定水準に達していると認定されてから、臨床実習（BSL）が始まる。しかし、予測不可能な臨床現場で診療に参加するためには、更に必要なものがある。医療入門2は、安全に医療を行うためのルール、どの科に行っても必要とされる基本スキル、研修後まで見据えた心構えを最終確認するための集中授業である。

【学習目標】

1. 目指す医師像を考え、それに向けた BSL の目標を持つ。
2. 「医療安全」「院内感染防止対策」「医療情報の取り扱い」の遵守事項を説明できる。
3. 基本的な検査データを系統的に読んで、陰性所見、陽性所見を説明することができる。
4. データを基に病態と診断の推論を簡潔にプレゼンテーションできる。
5. 相手に行動変容を促す、または、悪い知らせを伝える際に留意すべきことを説明できる。

【教科書】指定しない。

【参考書】

- ・「誰も教えてくれなかった診断学」野口善令、福原俊一著 医学書院
- ・「がん医療におけるコミュニケーション・スキル」内富庸介 藤森麻衣子著 医学書院

【成績評価方法】

授業への出席、演習の成果・態度を総合して判断する。

【学習上の注意事項】

【垂直的統合授業の実施内容】「医療安全」「院内感染対策」「地域医療における医療機関の役割」は、基礎医学、社会医学、臨床医学の内容を網羅する。「医療面接アドバンス」は、臨床医学と行動科学を統合した内容である。

【水平的統合授業の実施内容】「症例のプレゼンテーション」「腹部画像診断」「胸部レントゲン読影の基本」「輸液の基本」「神経画像診断」「心電図の読み方」は、疾患ごとに学修してきた内容を、領域横断的に扱うものである。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】該当なし。

【授業スケジュール】

別途通知する。

【担当教員】

別途通知する。

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

【コンピテンス達成レベル】

学習アウトカムと科目達成レベル表

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナリズム					
医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。					
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。	○	
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。	○	
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。	○	
4)	法令、医師会等の規	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。	○	

	範、機関規定	②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。	○	
		③	利益相反について説明できる。	○	
2. 生涯教育					
医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる、評価することができる科学的基礎知識を身につける。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。	○	
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。	○	
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。	○	
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。	○	
3. コミュニケーション					
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。					
1)	患者や家族に対するコミュ	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。	●	

	コミュニケーション	③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。	●	認定の要件である
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。	●	
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。	●	
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。	●	
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。	●	
		③	他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。	●	
4. 知識とその応用					
基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。					
2)	医療を実行するための知識	⑥	人体各器官の疾患 診断、治療	○	模擬的な問題解決に知識を応用できることが単位認定の要件である
		⑦	全身性疾患の病態、診断、治療	○	
		⑧	全身におよぶ生理的变化（成長と発達、加齢・老化と死）	○	
		⑨	疫学と予防、人の死に関する法	○	
		⑩	診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)	○	
5. 診療の実践					
患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。					

1)	病歴収集	①	患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	
2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。	●		
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。	○	模擬的診療を実践できることが単位認定の要件である	
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。	○		
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。	○		
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。	○		
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。	○		
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。	○		
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策(標準的予防策: standard precaution) が説明できる。	○		
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。	○		
6. 医療と社会・地域(福島をモデルとした地域理解)						
<p>A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。</p> <p>B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。</p>						
1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。	●	実践の基盤となる知識	

		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。	●	を示せることが単位認定の要件である
		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。	●	
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。	●	
		⑤	多方面(家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など)から、診療に関連する情報(家・環境・周囲の助けなど)を的確に集める手段を理解している。	●	
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。	●	
7. 医学/科学の発展への貢献					
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。					
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	●	
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。	●	
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。	●	